

テーマ：地域資源の掘り起しと活用 対象：地域住民 主催：広島市中央公民館ほか

# 1-⑩リモート公民館ひろしま

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

## 1 事業プログラムの展開（令和2年度）

日程	場所	学習・活動内容	
令和2年6月～	広島市内公民館 ※下記参照	広島市内公民館で、様々なパターンのリモート事業・オンライン講座を試みる。	
※①～⑩は、広島市内公民館の取組事例			
① 中区公民館ネットワーク事業 被ばく樹木についての講演及び現地を散策の様子をオンラインで配信した。中区内公民館で試験的に実施した。	② オンライン旅行講座 似島公民館と湯来西公民館をオンラインでつなぎ、双方向通信が可能な方法で実施し、湯来の魅力を伝えた。	③ セタコンサート コンサート会場の密を回避するため、竹屋公民館のロビーでもコンサートの様子をリモートで配信した。	④ かがやきサロン 安公民館の太極拳講座において、会場の入場制限を緩和するため、メイン会場とサブ会場で同時実施した。
⑤ 子育て応援スペース 定員を超える申し込みに対応するため、中央公民館の子育て応援スペースをオンラインでも参加可能とし、実施した。	⑥ 満喫！かベ学 可部公民館の歴史講座（講演会）において、メイン会場とサブ会場と他の公民館で視聴が可能な方法で実施した。	⑦ 親子自由研究クラブ 竹屋公民館の親子対象事業において、参加できない親や、遠くに住む親族・親戚等も散策の様子を視聴できるようにライブ配信した。	⑧ スマホでZoom研修 地域包括センターと白木公民館の共催事業として実施し、会議用アプリZoomをインストールするところから学習した。
⑨ コミュニケーション講座 中央公民館の話し方講座を、対面とオンラインを混合した、ハイブリッド講座として実施した。	⑩ 防犯講習会 坪井公民館と地域団体との共催事業において、会場の3密を回避するため、サブ会場を準備し、実施した。	⑪ オンライン絵本DE読書会 可部公民館において、講師も参加者もZoomを使い、完全リモートで講座を実施した。	⑫ オンラインキッチン 中央公民館の国際理解講座では、水餃子作りの食材などを事前に自宅に準備し、Zoomで参加する講座を実施した。
⑬ オンラインギャラリー 可部公民館の利用グループの作品展示や活動紹介を、ホームページ上で配信するサイトを開設した。	⑭ レッツトライッキング 中央公民館エリア内の子ども会と連携して、オンラインで料理教室を開催した。子ども会役員もスタッフとして配信をサポートした。	⑮ リモート公民館ライブ発表会 公民館祭りに代わる試みとして、公民館のグループの発表及びリポート中継を市内5公民館が連携しYouTubeでライブ配信した。	⑯ あかちゃんといっしょ 中央公民館の子育て支援グループのメンバーが第一子育児中の母親を対象にオンラインしゃべり場を実施した。



対象	講座・イベント参加者、リモートサポート事業（リモート公民館ひろしまが広島市内の公民館のオンライン事業をサポートする事業）
経費	受講者：無料（ただし、⑫のみ食材と調理器具は受講者が負担及び準備） 運営側：1万円未満（ビデオキャプチャー、ミニHDMIケーブル）
連携先	市内公民館（竹屋公民館、吉島公民館、舟入公民館、似島公民館、安公民館、可部公民館、白木公民館、船越公民館、湯来西公民館、八幡東公民館、坪井公民館）、公民館利用グループ等

問合せ先	広島市中央公民館 〒730-0005 広島市中区西白島町 24 番 36 号 電話：082-221-5943 ファクシミリ：082-221-5118
------	--

## 2 事業設定の理由（事業の目的）

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い公民館の事業が中止や延期など大きな影響を受けた。新型コロナと向き合いながら成長できる学びを提供するため、公民館がこれまで提供してきた集合対面型の事業を補完するとともに、幅広い学習成果の発信や公民館の未利用層へのアプローチにもつなげる新たな事業展開の構築を図るため、リモート活用事業の可能性やその実施方策を試行する。

## 3 事業目標

- 集合対面型事業の入場制限の課題を解決する。
- SNS 上で広く学習成果を発信することで、若年層や未利用層へ PR する。
- リモートを活用することで公民館等事業の新たな可能性を広げる。
- 様々な人や施設と連携することで、新たなつながりをつくる。

## 4 事前に必要な知識や準備物

- Zoom や YouTube などの操作方法
- ICT 機器の準備
- 講師との連携

## 5 留意点

- 「公民館、その他の社会教育施設の開館に向けた考え方について（広島県）」を参考に新型コロナウイルス感染防止対策を行う。
- 司会役やテクニカルディレクターが必要であるため、複数の公民館と連携し、講座を実施する。
- 講座の広報を行う際、リーフレットへ講座参加のための準備の他、オンライン参加のための準備を記載する。

## 6 成果

- コロナ禍で集合対面型の事業が困難な中においても、学習機会を提供し続けることができた。
- 日頃来館できない地域住民や子育て家庭等に人と人がつながる場を提供することができた。
- これまで提供してきた集合対面型の事業を補完し、学習内容もより深めることができた。
- 複数の公民館や団体と連携することで、相互の知識やノウハウを共有するとともに協力や連帯するネットワークづくりの大切さを実感することができた。
- オンラインやリモート事業の様々な取り組みを情報発信することにより、無関心な職員や苦手意識を感じていた職員に変容が見られた。

## 7 課題

- インターネット回線が十分に整備された環境がないと難しい。また、カメラ機能付きパソコン、ビデオカメラやキャプチャーなど配信用機器の整備が必要である。
- リモート事業を実施するため、職員が最低2人必要となる。少人数職員体制の中、単館では実施しにくい。そのため、職員を補う市民や他館の職員の協力体制づくりが必要である。
- アプリのインストールや Zoom の使い方を学習する機会を提供する必要がある。

## 8 今後に向けて

- コロナ禍における自粛期間中の事業として実施しているが、コロナ終息後の新しい公民館事業の在り方として活用できる可能性を探る。
- 公民館に来ることができない地域住民や、来館しにくい地域住民など、各々の置かれている環境に関わりなく、気軽に参加できる事業を提案する。
- Zoom の使い方研修などを行うことで、市民のオンライン事業化に対する苦手意識を低減し、学び続けることのできる環境を提供する。
- SNS の得意な高校生や大学生ら若年世代を巻き込み公民館や地域活動に関心を持つ機会をつくることで、公民館未利用者層へアプローチし、公民館活動の幅を広げる。